

東京都看護協会様の国際教育交流事業に協力 インドネシア国 看護協会訪問 & 当社ウィッグ工場見学会

in インドネシア

スヴェンソンは、東京都看護協会様の国際教育交流事業の一環として、がん関連の専門看護師・認定看護師を含む医療従事者のインドネシア国看護協会の訪問に随行しました。その後、インドネシアにある当社のウィッグ工場にて、医療用ウィッグの製造工程を見学・体験いただき、がん患者さんへの情報提供として理解を深めていただきました。

目次

- ◆ 看護師が安心して働き続けられる環境づくりを！～東京都看護協会の取組み～
- ◆ インドネシア国 看護協会訪問・交流
- ◆ ウィッグ工場「PT AKAR WANGI」～製造工程の見学と現地スタッフとの交流会～
(スヴェンソングループ会社)
- ◆ ウィッグづくりに込めた想い
- ◆ “がん患者さんの「脱毛」に寄り添う看護師”を目指して～見学・交流会の感想～

看護師が安心して働き続けられる環境づくりを！ ～東京都看護協会の取組み～

東京都看護協会は、看護職の質の高い看護実践とキャリアアップの実現に向けた生涯学習の支援や、安心して働き続けられる環境づくりを推進している職能団体です。

また、事業の一環として世界各国の医療環境の視察・看護師の教育を目的とし、国際交流事業を行っています。今回は2020年1月に、がん関連の専門看護師・認定看護師を含む医療従事者に参加いただき、インドネシア国看護協会への訪問・セッションと、スヴェンソンの医療用ウィッグ製造工場の見学会が実施されました。



インドネシア国 看護協会訪問・交流

インドネシア国看護協会への訪問では、自国の医療政策やがん患者さんに関わる協会の役割についてのセッションが行われました。看護師のスキルアップ制度や医療環境の課題などの意見を交えたほか、インドネシアの看護師の育成環境の改善についての説明を受けました。

今後は相互の病院の看護サービスを視察する機会をつくるなど、看護の質向上を目指す協力体制の構築に向けた出発点となる交流会となりました。



ウィッグ工場「PT AKAR WANGI」(スヴェンソングループ会社) ～製造工程の見学と現地スタッフとの交流会～

ウィッグの製造工場見学では、普段がん患者さんと接する看護師の方々に、ひとつのウィッグができるまでの製造工程と、スタッフの熟練された技術を見学・体験いただきました。ウィッグ製造には髪の毛を自然にみせるための植毛技術や、全体のバランスをみながらカールを付ける工程など、機械化できない部分が多く、人の手による繊細な技術が必要です。参加者の方々からは、患者さんへウィッグの情報提供をする際のポイントを知るきっかけとなったとの感想をいただきました。

髪の毛にカールを付ける工程

ネットに髪の毛を植える工程



毛材をミックスする工程

ウィッグ試着会の様子



当日は、バリ工場スタッフによるバリ舞踊と歌のセレモニーで、心のこもった歓迎式が行われました！



ウィッグづくりに込めた想い

医療用ウィッグは、治療中にお使いいただくものだからこそ、商品もサービスも安心していただける品質でなければいけません。スヴェンソンの医療用ウィッグは、お客さまの声に耳を傾けながら何度も改良を重ね、研究されたウィッグです。工場で作られたウィッグを、店舗でプロのスタイリストがお客さまのご要望にお応えし、丁寧にヘアスタイルをお作りします。しかしウィッグは、ヘアスタイルを「作る」だけでは自然なウィッグにはなりません。自然なウィッグを作るためには、お客さまと共に「作りこむ」ことが大切です。スヴェンソンでは、ウィッグを使用する期間、どのように過ごされるのか、使用頻度や時間、環境などをお聞きして、安心して過ごしていただけるよう、お客さまと情報を共有し、最善のスタイルを提案させていただきます。



“がん患者さんの「脱毛」に寄り添う看護師”を目指して ～見学・交流会の感想～

日頃、患者さんに情報提供をしているウィッグが、一つ一つの工程を手作業で製造されており、その工程は精密で品質にこだわって製作されていることを知りました。患者さんお一人おひとりのQOLの為に、国を越えて多くの人に関わっていることは、チーム医療の一つであると感じました。

がん性疼痛看護認定看護師 (東邦大学医療センター大森病院)

がん医療におけるアピアランスケアは、治療に伴って生じる外見の変化をウィッグなどで補うだけでなく、その人らしい生活を支えるケアだと考えます。遠く離れたバリ島で丁寧に製造された医療用ウィッグは、日本で治療する患者さんを大いに励ましています。工場働くスタッフの誇りと、その方たちを指導する日本人スタッフの努力に感銘を受けました。

がん看護専門看護師・乳がん看護認定看護師 (昭和大学病院)

ウィッグの製造工程のほとんどが手作業で行われていることに驚きました。髪の毛のカール、ミシンで髪の毛を縫う作業、植毛体験をしましたが、どれも複雑で難しく上手いはず、現地スタッフの技術の高さを実感しました。帰国後、患者さんにアピアランスのテーマで、ウィッグの工場見学の話をすることがありました。患者さんは丁寧に作業している様子に驚き、感動していました。

がん看護専門看護師 (東京都済生会中央病院)

異文化に触れ、様々な方と交流することで、がん看護のプロフェッショナルとしての自分の立ち位置や役割を再認識することができました。この経験と学びを医療スタッフと共有し、アピアランス支援に役立てていきたいです。

がん化学療法看護認定看護師 (杏林大学医学部附属病院)

アピアランスケアの中で、特にボディイメージに影響の大きい脱毛ケアに対して、様々な支援事業や作成後のケアが行われていることを知り、大変興味深かったです。一つ一つ丁寧に手作業で作られたウィッグ、ご利用者が大切にしているウィッグには、個々の物語が存在します。道具として捉えるのではなく、その人の一部として関心を寄せ、代償レベルに合わせたケア介入を行う必要があると感じました。

緩和ケア認定看護師 (東京医科歯科大学医学部附属病院)